

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1

江ノ電第2ビル 7F

Tel: 0466-26-3028 Fax: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp <http://jdgs-shonan.ciao.jp/>

新年のご挨拶



湘南日独協会
会長 松野義明

2017年1月1日

明けましておめでとうございます。本年も皆様にとりまして実り多い年であることを祈念いたします。

昨年も、大隅良典氏のノーベル賞受賞やリオのオリンピック・パラリンピックでの日本選手団の活躍などの報道が我々に大きな勇気と自信を与えてくれました。

湘南日独協会にも明るいニュースがありました。当協会の設立当初から友好関係にあるヴァイマル独日協会のパウハウス会長が日本の勲章(旭日双光章)を授与されたことです。長年にわたって日本の生け花文化をドイツに紹介してこられた功績が高く評価されたものです。

来年は当協会も設立二十周年を迎えます。その記念行事の一つとして、パウハウス会長率いるヴァイマル生け花グループと湘南地区の生け花グループとの共同展示会を実現するべく現在検討中です。生け花という表現形式を通して日独の感性の相乗効果を皆様に満喫して頂くことを目指しています。また、欧米の人々が日本をどのように認識してきたか、それを踏まえて、現代の日本人は自国をどう再認識するべきかについて識者と親しく話し合える場を設けることも検討中です。

会員の皆様からも、設立二十周年記念行事に関する様々なアイデアを頂戴できれば幸いです。例会、催事などに関しましては皆様の斬新なご提案を期待しております。本年も昨年に引き続き皆様のご協力をお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新入会員紹介 敬称略
斎藤 浩

湘南日独協会の行事予定

■Schwatzerei am Stammtisch 第26回

テーマ: Allgemeines Bild der Japaner

(日本らしさ、日本人らしさとは?)

日時 1月10日(月) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第45回

日時 1月22日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所 5階

会費 1,000円

■1月例会 講演会

「日本の原子力発電のもう一つの道」

日本にこれまでなかったトリウム原子炉について
技術の専門家が解り易く解説します

講師 近藤英樹氏 (機械技術士)

日時 1月29日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア 7階

会費 1,000円

懇親会 会場「宗平」会費 4,500円

■Schwatzerei am Stammtisch 第27回:

日時 2月17日(金) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第46回

日時 2月19日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■2月例会 講演会

「ドイツ人法律家の見た日本国憲法」

最近日本では憲法見直し議論があります。ドイツ人学者の視点からどのようなことが浮かび上がってくるのでしょうか? 日本語で講演いただきます

講師 Prof. Dr. jur. Heinrich Menkhaus

ハインリッヒ・メンクハウス教授

前ページよりの続き

講師 ハイブリット・メンクハウス教授

明治大学法学部・大学院法学研究科専任教授。
長年日独両国を中心に多くの研究機関並びに大
学で日本研究と法律学に携わっておられます

日時 2月26日(日) 14:30~16:30

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000円

懇親会 会費：会場未定

■Schwatzerei am Stammtisch 第28回

日時 3月14日(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen 歌で楽しむドイツ語第47回

日時 3月19日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■3月例会 講演会

「ブラジルでコーヒー農場の経営

ー楽しいこと・辛いこと・面白いことー」 (仮題)

講師 岩崎 透氏 ブラジル東山農場会長

とうざん
東山農場は三菱財閥の創業者岩崎弥太郎氏の長男岩崎久弥氏により1927年ブラジルに創設されました。その責任者として長年大農場を経営してこられた講師より現地の様子、農場経営の諸々を聞かせて頂きます。なお、講師は岩崎英二郎当協会名誉顧問のご子息です。

日時 2017年3月26日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000円

懇親会 会費・会場未定

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「ふじさわ国際交流フェスティバル」参加報告

2016年10月30日(日) 藤沢駅北口のサンパール広場で第13回ふじさわ国際交流フェスティバルが開催され、湘南日独協会も参加した。私の記憶では今年で5度目の参加になる。去年は雨の中で苦勞した行事だったことを思い出し、「良い天気になぁ〜れ」とそればかりが気になった。

当日は晴れ！協会のブースの位置もなかなか目立つ場所！好条件に恵まれて多勢の方に立ち寄っていただけた。

ドイツという国とその文化をいくらか紹介できたような気がする。

ドイツビールとプレッツェルの販売も行い、例年のことであるが、こちらも好評であった。

協会としてこのフェスティバルに参加し、販売作業には不慣れな役員たちが会員の方々にも応援して頂いて運営した。にこにこ、あるいは黙々と、協力しあっている皆様を見ていると「国際交流」だけでなく、「協会内交流」にも役立っているようで楽しかった。

アルプホルン演奏のダンケシェーンの皆様もありがとうございました。

そういえば今年の参加で私個人の記憶に残ることがあった。震災募金箱が会場の数か所に設置され、協会のブースにも置かれた。私は募金箱を抱えて「おいします！」と道行く人に声を張り上げてみた。初めての経験であった。箱の中でコーンと音がして「気持ちです」と女性がニコリしながら通り過ぎて行った。うれしい気持ちになった。

藤沢市は、2020年東京オリンピックでヨット競技の開催地になっている「江の島」を抱えている。「ヨット競技、藤沢の江の島」で国際交流が盛り上がることを想定して市民が今から気持ちを一つにしようという目的で、進めている感じを受けた。

このフェスティバルを通して湘南日独協会の交流の輪も広がっていくことを願っている。

(伊藤志津子)



ブースの様子と小田原から留学生が来訪

劇場だより その3

プレーマーハーフェン 志賀トニオ氏



クリスマスマーケットヘリンデさんと一緒に

12月はシーズン中1番の書き入れ時。年始のニューイヤーコンサートまで、本番が目白押し。演劇部門では1アドヴェントからクリスマスまでの間に子供向けの演目がほぼ毎日上演されます。毎年違う演目を取り上げるのですが、必ずどの劇場でもこの時期に行われ、伝統的に”Weihnachtsmärchen”と呼ばれています。シーズン初めに聴衆は今年のWeihnachtsmärchenは何だろうと注目している公演です。

今回は Ronja Räubertochter という盗賊の娘のお話。そしてもう一つ皆が注目するのが、今年のクリスマスのオペラ公演。毎年12月25日にオペラのプレミエがあるのが伝統で、この日だけはどんな曲が上演されても早々に売り切れになってしまいます。今回は皆さんご存知の”こうもり”！私は当然このこうもりの稽古を毎日しているわけですが、合間を縫って現在ドイツ訪問中の母と長女と3人で上記の演劇公演を見に行ってきました。劇場で働いていると自分が関わっている曲は1枚タダ券をもらえ、それ以外は1枚3Euroで公演を見る事ができます。チケット*には往復のバス代が含まれているのがドイツならではの。いざ本番、客席は家族連れで賑わい、舞台はミュージカル仕立て、歌あり踊りありで十分楽しめる内容でした。公演後には劇場前広場でクリスマスマーケットに繰り出すというゴールデンコース。



*上の文中に出てくるチケットです

さて、ここからは少し私の家族のお話しを。私は日本人の妻と4人の娘（5歳、3歳の双子、1歳）の6人家族。10代の頃から将来子沢山な大家族を持つ事を密かに夢見ていましたが、音楽家になる事を決心した時に一度その夢を諦めました。しかし、ドイツで仕事を始め、一人目の子供が生まれ、ドイツでの福祉制度を知れば知る程、家族に手厚い社会であるのが分かり、一度諦めた夢を実現する事ができました。ドイツでは制度上、子供を持てば持つほど、恩恵を得られるようになっている事。そして、大学まで学費がほぼ無料で教育を受ける権利がある事が決定的でした。それから、ドイツという国は国際的で外国人が住みやすい。なかでもここプレーマーハーフェンは港町という土地柄、そして町が出来てまだ170年で、長く米軍が駐留していた歴史からも、特に外国人が住みやすく、オープンな町のように感じます。それに対して、以前それぞれ2年づつ住んでいた旧東ドイツの町、ロストックとワイマールは外国人の割合が低く閉鎖的でした。よりドイツ的という利点もありますから、観光で行くならむしろ旧東ドイツの方が魅力的と感じる事もありますが、家族と共に住むには色々な条件を満たさなければなりません。

ドイツの劇場で働く人の悩ましい問題はその労働時間です。10～14時、18～22時が基本的な労働時間ですから、一日2往復しなければなりません。劇場は町のど真ん中にありますから、必然的に住む場所も町の中心部になります。そうすると家族向けの物件がなかなか見つかりません。私も2年間毎日不動産情報をチェックし、ようやく今の物件を見つけました。

しかし、ドイツという国は家族を持つ音楽家にとっては大変住みやすく、感謝する事を忘れずに過ごしています。



左は4人のお嬢さん

下はイルミネーション



「子供のQOLと主張性」

ー日本とドイツの比較からー

講師 柴田玲子氏

聖心女子大学文学部心理学科准教授

会員 大澤由美子



先生のにこやかな笑顔で講演がはじまる。ドイツで子どものQOLを調査するために初めてドイツ語を学んだこと現地での知り合いの協力を

得たこと等々、研究に対する積極的な取り組みがうかがえた。その中でも、当協会副会長伊藤志津子さんとご主人の伊藤一さんの的確な支援もあったようで会員としてはちょっとうれしい気持ちになった。

QOL（クオリティーオブライフ）は、人間らしくその人らしく人生に幸福を見出して生活しているかの尺度をいうらしいが、介護や医療では用いられているのを耳にすることがある。先生の研究は 小学生のQOLを国際比較しそこに出てくる差の要因を探り今後の教育に生かそうとするものであった。今回はドイツと日本を比較する話であった。



子どものQOL尺度は身体的健康、精神的健康、自尊感情、家族との関係、友だちとの関係、学校生活から構成されている。

柴田玲子氏

調査対象は、3・4年生（10

歳）にしている。この年齢設定は10歳以上になると日本ではそのまま5年6年と進むが、ドイツでは進路が違ってくるという事情からだそうだ。

今回は、特に自己肯定感（自尊感情）、主張性（自己表明と他者配慮）、について取り上げられた。日本の子どもはドイツに比べ自己肯定感がとても低く、主張性も低いことが分かった。

この差の要因の一つに文化的背景があると考え両国の学校教育に目を向けた。ドイツの学校では自分の意見を主張することが求められ、日本の学校ではみんな仲良く助け合うことが求められている。言い換えると自己主張を求める文化と他者配慮を求める文化の違いが両国の子どものQOLに反映されているということであった。

自己表明の得点はドイツの方が高い。これは男女別にみてもドイツの方が高い。

4
他者配慮の得点は僅かにドイツが高い。ドイツも日
男女別でみると女性の方が高い。他者配慮については、
「年齢が違っても国が違っても女性の方が高い」という
コメントがあり、やっぱりと大きくなずいてしまった。

自己表明が低く僅かではあるが他者配慮も低いとなると文化の違いとは言え「日本の教育は・・・」ということになる。

自己表明の低い日本の子どもが、大した自己表明もせず、何となく高校へ何となく大学へ何とか就職しても何にもできない社会人になる例が増えてきている。（自己表明だけが原因ではないだろうが）

また、一方では自己中心的理不尽な要求をするモンスターペアレンツやクレーマーが最近急増している。

自己表明力をつけることは大切だとは思いますが、常に他者配慮力もつけなければと講演を聞きながら思った。



Deutsche Witze

Ein Mann will in einer Schweizer Bank Bargeld einlegen.

"Wieviel wollen sie denn einzahlen?" fragt der Kassier.

Flüstert der Mann: "Drei Millionen Euro."

"Sie können ruhig lauter sprechen," sagt der Bankangestellte, "in der Schweiz ist Armut keine Schande!"

ある男がスイス銀行に現金を持ってきて、預金口座を開こうとした。「どのくらい預金して頂けますか?」と出納係が尋ねた。男は声を低めて「三百万ユーロです。」と言った。それに答えて銀行員曰く、「安心してもっと大きな声でお話しになっても大丈夫ですよ、スイスでは貧乏はちっとも恥ずかしいことはありませんからね。」

講演会

「箱根の自然を守って 50 年」に参加して



会員 昔農英夫

2016 年 11 月 23 日に川崎英憲氏（会員）が会長を務める「箱根を守る会」が発足 50 周年記念特別講演会を開催し参加しました。小田原市にある県立生命の星・地球博物館の

広い会場はほぼ満員の聴衆で埋まっており、地元の方々の箱根を愛して止まない気持ちが開演前からひしひしと伝わってまいりました。記念講演は箱根を守る会発足に至る経緯や 50 年のあゆみ、箱根の動物、箱根の植物に焦点をあてたもので会場を後にするときには、いっばしの箱根の自然通になった気分でした。

会設立の発端はハコネコメツツジという固有種を盗掘の被害から守るという市民運動と伺いました。50 年前は、高度成長期の只中で、箱根でも開発を進め目先の利益追求をという当時の社会風潮とは無縁ではなかったようです。昭和 43 年には、芦ノ湖畔に大規模な国際会議場建設計画が持ち上がり、国や県、地元箱根町もが開発を推し進めようとした。守る会はこれに異を唱え、最終的に自然や景観を守ることにつなげ、今日の国際観光地として価値を維持し高めた慧眼と地道な努力に感心させられました。

会の経験した大きな活動に、箱根町仙石原小塚山のポーラ美術館建設反対運動があります。結果的に、大規模なブナ林破壊を伴い美術館は建設されたのですが、将来同様な運動への教訓をとの趣旨で活動の詳細な経緯が同会のホームページで公開されています。私も美術館を訪れましたが、林の中に不釣り合いなコンクリートとガラスの構造物、それに大面積の有料駐車場に先ず違和感を覚えました。自然の中の立地にも係らず、絵画展示スペースは外界と完全に隔絶され、なぜ自然破壊までしてアクセスの悪いこの地に美術館を建設する必要があったのかとの素朴な疑問が湧いてきました。ホームページで紹介されている活動の顛末記に、開発の検討過程で県が実施した事業の環境アセスについて触れています。本来環境を守るべき目的の判断指標が逆に開発にお墨付きを与えるに至ったとの記述に公共財である自然保護と営利追求の開発をめぐる許認可行政の問題の根深さを垣間見たような気がします。

頻繁に箱根の自然と温泉の魅力を享受する者として今回の講演を契機に自然保護にも関心を寄せてゆこうと思います。最後になりましたが素晴らしい企画に感謝いたします。

（箱根を守る会ホームページ

<http://www.hakone-cs.jp>)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

映画「ヒトラーの忘れもの」

会員 勝亦正安

昨年 11 月、この映画を試写会で見る機会を得ました。先の大戦がもたらした悲劇と残酷さを描いたデンマークとドイツの合作映画、セリフの 9 割はドイツ語です。大戦中ドイツ軍の占領下にあったデンマークの海岸には連合軍の反攻を防ぐ為、ドイツ軍によって 200 万個以上の地雷が敷設され、大戦直後の 1945 年、地雷除去にドイツ兵捕虜が駆り出され、多くの命が失われました。

映画は、この危険な作業を強制されたドイツ少年兵捕虜 11 名と彼らを監督監視するデンマーク人軍曹の物語です。ドイツ憎しの軍曹は、当初、少年兵捕虜を過酷に扱いますが、極度の緊張と空腹の中、帰国に夢を託して危険な作業に従事する彼らに接する内にナチスの罪を少年兵に償わせることに疑問を抱くようになります。最後は、生き残った 4 人の少年兵を軍曹は逃がしてしまいます。

美しい海岸で匍匐しつつ、棒 1 本を頼りに地雷を探り当て、信管を抜く、一つ誤れば死です。デンマークでもあまり知られていないが、多くは事実に基くそうです。

戦争のもたらす残酷さとその事実は忘れるべきではない一方、憎しみと復讐の連鎖を断ち切る、歴史的「赦し」の必要性もあることを映画は訴えているのではないのでしょうか。

捕虜を逃がした軍曹のその後、生き残った少年兵捕虜 4 人の帰国後の人生、映画は余韻を残しています。2 年前に見た、ドイツ系ユダヤ人哲学者を描いたドイツ映画「ハンナ・アーレント」とは違った角度から歴史の事実と人間を描いた映画です。

邦題は軽いのですが、内容は重厚、お勧めしたい名画です。

昨年 12 月 17 日から劇場公開されています。

「かまくら国際交流フェスティバル参加報告」

「かまくら国際交流フェスティバル 2016」が 11 月 13 日（日）に高德院（鎌倉大仏）で開催されました。小春日和に恵まれ、観光名所という事情もあり外国人を含む多くの方が当協会のブースにも訪れました。協会の活動紹介に加え、会員の鬼久保様と仲間によるチロル地方の民族楽器演奏、ドイツ焼菓子の詰合せを販売いたしました。セールス・レディの魅力もあって用意した 100 セットは程なく完売しました。民族楽器の演奏では、ブースの周りに人垣ができ文字通り国際交流の輪が生まれました。

今年は、会員がドイツとの関わりを契機に生まれた菓子を、作り手の在独体験と共に紹介することを企画コ



ンセプトに掲げました。焼菓子の詰合せは、曽根愛様（会員）がフェスティバルのために特別に準備してくれたものです。彼女は子供の

頃からの夢を実現するために高校卒業後単身渡欧、ドイツ、スイスで約 8 年に及ぶ修行の末、Handwerkskammer zu Köln からドイツ国家製菓マイスター資格を与えられた根っからの職人です。帰国後、藤沢市片瀬山に開いた「アウスリーペ」（電話 0466-61-3596）で自らドイツ伝統の菓子を焼きつづけています。

林英子様（会員）が Stuttgart 滞在中に草の根の市民交流の中ではぐくみ、慣れない異国での生活に彩を添えてくれたと述懐されるドイツケーキの紹介も彼女の好意で準備を進めておりました。しかし、役所の手続き上



の問題から断念せざるを得なかったことを申し添えます。寿福寺前にある林様の茶房「ほたる

1 月号のこみち」は訪れたかたも多いと思いますが、八幡宮から横須賀線を渡ってすぐ、散策の途中に是非立ち寄ってみて下さい。（鎌倉市扇ガ谷 1 - 14 - 11。日曜、月曜日は休み。前もって電話 0467-24-8641 すると確実です）手作りのドイツケーキと林さんがこだわりで選んだ器でいただく紅茶、それに彼女の気さくなお人柄が心とほぐれと時を与えてくれます。（昔農英夫）

出版物案内

「戦前・戦後 70 年 + α」

著者 古橋昭子

湘南日独協会発足以来長く運営に携わって来られた著者の近著です。長年の仲間の吉田克彦氏（当協会理事・江ノ電沿線新聞会長）が次の言葉を寄せておられます。

「戦前・戦後を湘南の地で注意深く生きてこられた著者の鋭い観察眼とその記憶力に圧倒される」

購入希望は江ノ電沿線新聞社へ。定価 700 円税別

Deutsche Witze

"Chef, darf ich heute zwei Stunden früher Schluss machen? Meine Frau will mit mir einkaufen gehen."

"Kommt ja überhaupt nicht in Frage, Schulze!"

"Vielen Dank Chef, ich wusste, Sie würden mich nicht im Stich lassen."

「部長、今日、2 時間ほど早退けしてもよろしいでしょうか。家内が、どうしても買い物に付き合ってくれと言っておるものですから…。」

「だめだ。そんな話はまるっきり問題外だよ、シュルツェ君。」

「ありがとうございます、部長。どんなことがあっても、部長が私を見殺しになさらないことはよく存じておりました。」

ドイツでは財布の紐は夫が握っているのが普通。妻が買い物に付き合ってもらいたいということは、高価なものをねだられることを意味している。それを阻止した部長に感謝している。

編集後記

○「劇場だより」もますます面白くなってきましたね。今回はトニオさんの私生活ご家族のお話もあり現在のドイツの事情を知ることが出来ます。

○1 月号は例年緊張を感じます。来年 2018 は湘南日独協会の創立 20 周年を迎えます。合唱団アムゼルも 15 周年となり、演奏会準備に取り組んでいます。記念の年に向けて頑張りましょう。

○皆様のご寄稿そして情報をお待ちしています。メールでも書面でも結構です。待っています！

（大久保）